

**障がいのある子どもたちの絵画コンクール
「第 21 回キラキラとアートコンクール 優秀賞作品展」開催**
札幌会場は 12 月 9 日（金）よりスタート

三菱地所株式会社は、12 月 9 日（金）から 12 月 11 日（日）にかけて、マルヤマクラス 2 階イベントスペースにて、「第 21 回キラキラとアートコンクール優秀賞作品展」を開催します。

「キラキラとアートコンクール」（後援：文部科学省・全国特別支援学校長会）は、障がいのある子どもたちの可能性を応援したいとの想いから、国内初の障がい者アトライブラリー アートビリティ※1 の協力を得て、2002 年にスタート。歴代応募者の中からアートビリティの登録作家として現在 27 名が活躍するなど、子どもたちの才能を支援してまいりました。

※1 アートビリティ・・・1986 年に社会福祉法人東京コロニーが設立した障がい者アトライブラリー。現在約 200 名の作家による約 6,000 点の作品がストックされ、印刷物等の媒体に貸し出されています。

本作品展は、21 回目を迎える同コンクールの全応募作品 1,006 作品（38 都道府県）の中から、審査会（1 次審査、一般審査※2・三菱地所グループ社員審査、本審査）を経て選ばれた優秀賞 50 作品を札幌から福岡まで全国 9 会場で展示するものです。北海道内からは 2 作品が優秀賞に選ばれました。また本年 8 月 8 日（月）には高松空港にて「みんなで描こう！『かがわ・わくわくため池』」と題した体験型ワークショップを開催し、アートビリティ登録作家を講師に迎え地元の子どもたちと絵画を共同制作しました。ワークショップ作品は一部の会場で展示予定です。

11 月 10 日には優秀賞受賞者及び関係者にご視聴いただく、受賞者のつどいを開催いたしました。

※2 一般審査・・・丸ビル 1 階マルキューブで開催し、丸の内地区の就業者・来街者に参加いただきました。

本作品展の各会場では、自由なテーマで子どもたちが思いのままに表現し描いた個性豊かな作品に対し、来場者からメッセージを受け付け、今後の励みにつながるよう、受賞者本人にお渡しします。

また、全応募作品がコンクールホームページで公開されるほか、これまでの応募作品には様々な企業の冊子の表紙やカレンダーなどに使用されているものも多く、子どもたちの作品は、審査会、作品展、作品使用等を通じて、多くの人に感動を与えています。

三菱地所では、本コンクールが子どもたちの優れた才能を評価・発掘・展示する機会となり、子どもたちが絵を描く楽しみや喜びを増し、芸術活動の裾野が広がることを願い、応援してまいります。

【第 21 回キラキラとアートコンクール優秀賞受賞作品より】（※年齢は応募時のもの）



「りんご」
こばやしだいごさん(14 歳)



「ちーずサーモン」
たかきようへいさん(12 歳)



「ぞうのおやこ」
えぐちはるとさん(10 歳)



「仁王門」
てらわたけるさん(14 歳)

優秀賞・全応募作品をホームページ (<https://kira-art.jp>) にて公開しています。

＜本件に関するお問合せ先＞

三菱地所株式会社 サステナビリティ推進部
三菱地所株式会社 北海道支店

TEL:080-8075-1072（全般）
TEL:011-728-2170（報道関係）

1. 開催概要（札幌会場）

- ①名 称：第 21 回キラキラっとアートコンクール優秀賞作品展
- ②日 程：2022 年 12 月 9 日（金）～12 月 11 日（日）10:00～20:00
- ③会 場：マルヤマクラス 2 階イベントスペース（札幌市中央区南 1 条西 27 丁目 1-1）
<https://maruyama-class.com/>
- ④入 場 料：無料

- ⑤応募作品：・応募資格：何らかの障がいのある応募年齢 18 歳までの幼児・児童・生徒
・応募期間：2022 年 7 月 15 日（金）～9 月 9 日（金）
・作品規定：課題は自由。水彩、油絵、版画、パステル、鉛筆、貼り絵、切り絵、墨絵（習字は除く）など平面表現のもの。
サイズは規定（最大で 509mm×660mm（小全紙）、最小で A4 サイズ程度）。

2. 審査員講評 ※肩書きは 2022 年 11 月時点

■O JUN 氏（画家・東京藝術大学名誉教授）

第 21 回キラキラっとアート絵画コンクール 1,006 点の作品を審査しました。1,000 点を超える絵は毎回のことながら壮観です。でも審査はとても困りました。毎年そうです。応募数が多いからではありません。1 枚 1 枚の絵の違いに目を奪われるからです。それぞれが見ている物や事。感触、聴こえたこと、思い、場所、空気、光が、たとえ同じことを体験しても皆さんそれぞれに感じていて、そのことが絵に描かれているからです。その違いに私たちは目を奪われ、言葉や息を吞んで 1 枚 1 枚見るので骨が折れるのです。ですがそれは皆さんの絵の魅力と交換された証ということです。なので、審査が終わると入選外の別なく大きな喜びに交換されました。

ところで審査をしていて一つ気になることがありました。学校の授業で描いたのか同じ材料やテーマで描いている絵がありました。そのため似たような絵がたくさんありました。それぞれはよく見ると違うのですが、たくさん見ていると“違い探し”をしそうになっている自分に驚きました。面白い絵の授業だったのでしょうか。先生も生徒の充実した制作ぶりや方法に自信をもって応募してくれたのだと思います。もしできたら…の話です。たとえば、1 年間を通して授業で描いた絵の中から作品をピックアップするというのはどうでしょう。すると一人一人の絵の特徴や違いや魅力がさらに見えてくる気がします。先生方の仕事も増えますし、私たちの審査もより大変になることと思います。でも、そのぶん後の喜びも倍増することでしょう。

生徒たちに絵の指導をしてくださる先生方、励ましてくださる親御さんたちにお礼申し上げます。彼らの素晴らしい絵と皆さんのご苦勞を交換して喜びましょう。

■青柳 路子氏（東京藝術大学准教授、教育研究者）

本年度のコンクールも、魅力ある作品にあふれていました。優秀賞の作品を観ると、描かれたものによって作品一点一点が異なるのはもちろんのこと、どのような画材を用いるか、紙やキャンパスなどの支持体を何にするかによって多様な表現が生まれるということを改めて実感させられます。

子どもたちは用いやすい、描くのに心地よい画材を手にとって、表現しやすい方法を選びながら、絵画を描いているのだと思います。なかには少し扱うのが難しい画材や表現方法に挑戦した子どもたちもいるでしょう。そうした子どもたちの姿を、作品一点一点をじっくり向き合って観ていくことで感じるすることができます。そしてタイトルを手がかりに作品を観ていくと、子どもたちの思いもより伝わってきます。

今年度の応募作品のなかには、新型コロナウイルスの影響で叶わなかった、旅行に行くことができた思い出を描いたというものがありました。これまでの制約が少しずつ緩和され、描こうという思いを抱いたり掻き立てられたりする体験が子どもたちの日常に戻ってきたのだと思います。描きたいものを書く、表現する子どもたちの時間と空間とともに、子どもたちの生きる日常がこれからも豊かなものであるように願います。

■西田 克也氏（西田克也デザインオフィス グラフィックデザイナー）

第 21 回キラキラっとアートコンクールの審査期間が終わっていたココロが、コンクールが無事終了して、どうやら平静を取り戻したところですが、兎にも角にも、こんな時節柄、審査を全うできて正直ホッとしています。そうして今、講評を書くために今回出逢ったキラキラの作品たちを思い返そうと、風化しつつある記憶の襞をがむしゃらに手探りしていると、炙り出しのように現れる作品が何点かありました。

その具体的なディテールを言い表すのは難しいのですが、それは大きく描かれた恐竜の目であったり、ちょっと哀しげにこちらを見つめる白い犬（記憶違いかもしれませんが）の眼差しだったり、画面いっぱいに描かれたポケットゲーム機の黒い液晶画面だったり……。一次審査でこれらの作品を僕が選んだことは確かだと思いますが、本審査で優秀賞の候補として選んでいるかどうかの記憶は、実はあいまいなのです。

それは、一次審査の広い会場に並べられた沢山の作品の中から、自分の（ちょっと錆び付いてはいるものの）感性の赴くまま直感的に選び取った候補作品と、本審査の、候補作品 150 点全てが一堂に会した会場で、行きつ戻りつしながら選んだ場合とでは同じ作品でも印象が違って見えるからじゃないかと、作品選びのぶれの言い訳をしながら、だから、選ばれた優秀賞 50 作品が額装されて展示される優秀賞作品展の開催が待ち遠しく、開催会場でそれらの絵が今度はどんな印象で立ち現れてくるのか、今から楽しみで仕方ありません。

■高橋 宏和氏（社会福祉法人東京コロニー アートビリティ代表）

第 21 回キラキラっとアートコンクールの審査会においても個性が光る作品が多く、優秀賞を選考するにあたり大変悩ましい場面がありましたが、時には審査員同士で協議をしながら、1,000 点を超える応募作品から優秀賞 50 作品を選考させていただきました。優秀賞に選ばれた応募者の皆様、改めておめでとう御座います。

決められた応募期間の中で思い通りの作品が描けたでしょうか。作品からは、何度も描き直した様子が窺える作品も多く、もう少し時間があればという声が聞こえてきそうな作品がいくつかありました。普段の生活でも目標を立てて、計画通りに進められない場合は対策をし、計画通りに進められるように工夫することの連続です。

本コンクールにおいて、満足のいく作品を予定通り完成させる過程は、普段の生活でも皆さんが経験していることだと思います。思い通りの作品を描けた方、思い通り描けず悔しい思いをした方も、何らかの形で今回の経験を活かして欲しいと願います。

未だ続くコロナ禍で作品応募に関する影響を心配していましたが、今年も全国から 1,000 点を超える作品が集まりました。絵を完成させた時の達成感や充実感を忘れずに、今後も絵を描き続けて欲しいと思います。これからも審査員を更に悩ませる新たな作品のご応募をお待ちしております。

■吉田 淳一（三菱地所株式会社 執行役社長）

今年度も全国から多くの作品を当コンクールにご応募頂きました。子ども達はもちろん、関係各位のサポートに深く感謝いたします。

作品審査では、生命の潤いや温かさ、世界観の深みが直感的に感じられる作品が幾つも目に留まり、心を揺さぶられました。年齢や障がい等、様々な違いがある中で、優秀賞を選んでいくことには常に難しさを感じています。

文化芸術は、街にとっても潤いや豊かさを彩る大きな要素だと思います。単体で素晴らしい作品を生み出すだけでなく、今や介護やリハビリ、リラクゼーション等、WELL-BEING という観点で新しい分野に繋がっていく可能性があり、その研究が進んでいるという話を聞きます。世の中でアートをどう活用していくかという提案の一つとして、アートを街という空間に息づかせ、就業者や来街者、アーティストが互いに豊かさを享受する、そのような姿を想像し、自由な創作空間をアーティストに提供する等、当社としても一歩を踏み出しているところです。

このコンクールは全国での作品展の展開等、色々な街で多くの方々に楽しんでもらっており、すでにこれから先の街づくりのための重要な嚆矢になっているように感じていますし、今後ともこのコンクールが、引き続き街に住まう人々の心の豊かさを育てていくものとなるように努めてまいりたいと思います。どうぞ変わらぬご愛顧を宜しくお願い申し上げます。

■野口 玲一（三菱一号館美術館 上席学芸員）

新型コロナウイルスを気かけながらの生活にはもう慣れたでしょうか。前回の審査までは、皆さんが制約のある暮らしの中でどのように感じ、描いているのか心配していたのですが、なぜか今回はあまり気になりませんでした。感染症の影響がだんだん緩んできたのか、あるいは今の生活様式に当たり前になじんでしまって、そのような中でもそれぞれに新しい発見があり、それを楽しむことが出来るようになっているのかもしれませんが。思い思いの表現が感じとれる作品がたくさんあってホッとしました。

だから今回の審査は楽しかったです。描く喜びが伝わってきたり、描くときの発見が伝わってきたり、それぞれの声が聞こえてくるようで、作品と対話するような気分で観ることが出来ました。でもその中から優れた作品を選ぶとなると大変です。なぜってどの作品も素敵だから。よく考えて選んだつもりですが、結局は自分の好みも入ってしまったと思います。

ですので賞を取れなかったとしても、入選できなかったとしても、がっかりしないでください。それはそれぞれの作品に表現されていることが、こちらに見えなかっただけなのかもしれません。次の機会には見つけれられるかもしれませんから、描き続けてぜひまた出品してくれたら嬉しいです。

《審査の様子》

▼1次審査（9月30日）



▼一般審査（10月12日～13日）



▼本審査（10月19日）
三菱地所本社にて



▼体験型ワークショップの様子（8月8日）
高松空港にて



THIS IS
MECENAT
2022

認証事業公益社団法人企業メセナ協議会による芸術・文化振興
による社会創造＝メセナ認定制度「This is MECENAT 2022」を
取得

全国9会場にて開催!

※都合により会場・日程は変更になる場合がございます。

入場
無料

広島
HIROSHIMA

2022.11.3(木・祝)→11.6(日) 9:00-17:00
ひろしま美術館 別館第5展示室(入館16:30まで)
広島市中区基町3-2

高松
TAKAMATSU

2022.11.10(木)→11.15(火) 10:00-18:00
高松空港 2階 国内線出発ロビー
香川県高松市香南町岡1312番地7

仙台
SENDAI

2022.11.25(金)→11.27(日) 10:00-20:00
泉パークタウン タピオ 南館1階 ノースコート
仙台市泉区寺岡6-5-1

札幌
SAPPORO

2022.12.9(金)→12.11(日) 10:00-20:00
マルヤマ クラス 2階イベントスペース
札幌市中央区南1条西27丁目1-1

大阪
OSAKA

2022.12.23(金)→12.25(日) 10:00-18:00
OAPタワー 1階エントランス
大阪市北区天満橋1-8-30

東京
TOKYO

2023.1.5(木)→1.9(月・祝) 11:00-19:00
丸ビル 1階マルキューブ
千代田区丸の内2-4-1

福岡
FUKUOKA

2023.1.20(金)→1.22(日) 10:00-21:00
MARK IS 福岡もちもち 2階ももステ
福岡市中央区地行浜2-2-1

横浜
YOKOHAMA

2023.2.10(金)→2.12(日) 11:00-18:00
ランドマークプラザ 3階
横浜市西区みなとみらい2-2-1

名古屋
NAGOYA

2023.2.23(木・祝)→2.26(日) 11:00-21:00
大名古屋ビルヂング 地下1階アトリウム
名古屋市中村区名駅3-28-12

●各会場では、作者へのメッセージをお寄せいただき、作者本人にお渡しします。

KiraKira
ART

みんな、アーティスト。

主催 | 三菱地所株式会社

協力 | 社会福祉法人東京コロニー アートビリティ
公益財団法人ひろしま美術館
高松空港株式会社
三菱地所プロパティマネジメント株式会社

後援 | 文部科学省
全国特別支援学校長会
社会福祉法人札幌市社会福祉協議会
社会福祉法人仙台市社会福祉協議会
社会福祉法人東京都社会福祉協議会
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会
社会福祉法人大阪市社会福祉協議会
社会福祉法人広島市社会福祉協議会
社会福祉法人高松市社会福祉協議会
社会福祉法人福岡市社会福祉協議会

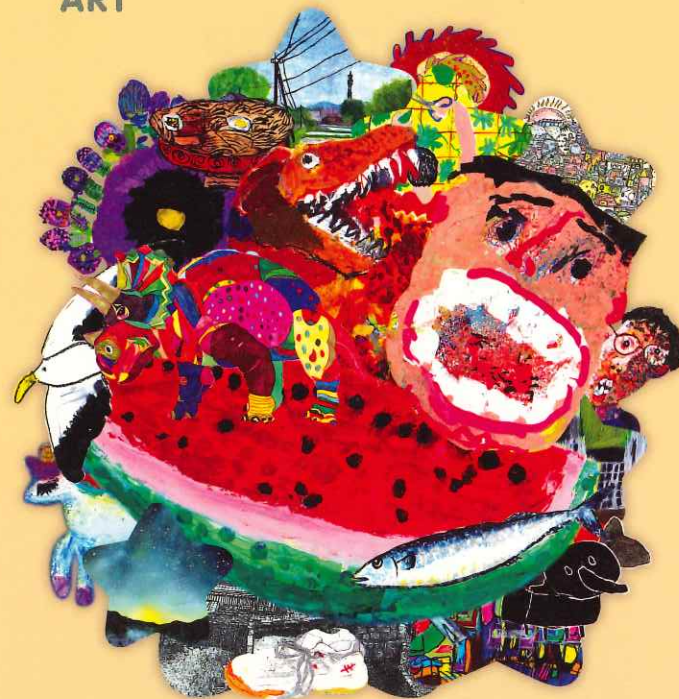
THIS IS MEGENAT
2022

三菱地所株式会社 サステナビリティ推進部 Tel. 080-8075-1072

MITSUBISHI ESTATE CO., LTD.
Sustainability Management and Promotion Department



KiraKira
ART



障がいのある子どもたちの絵画コンクール

第21回 キラキラっとアート コンクール 優秀賞作品展

2022.11.3(木・祝)→2023.2.26(日)

人を、想う力。街を、想う力。

三菱地所グループ

Kira Kira Art Competition for Children with disabilities
Exhibitions of award-winning entries



みんな、アーティスト。

「キラキラッとアートコンクール」は、障がいのある子どもたちの可能性を応援したい、との思いから2002年に始まりました。第21回目となる今回は、全国各地から約1,000作品のご応募をいただきました。審査会を経て優秀賞50作品を選出し、その作品展を札幌から福岡まで全国9会場で開催します。このコンクールをきっかけに、子どもたちが絵を描くことをますます好きになり、笑顔や自信をはぐくみ、才能や可能性が広がっていく、そんなコンクールでありたいと考えています。優秀賞作品展にお越しいただき、子どもたちのきらめき溢れる作品を存分にお楽しみください。

三菱地所株式会社

Everybody is an Artist

The Kira Kira Art Competition was launched in 2002 with the idea of supporting and encouraging children with disabilities to reach their full potential. This year's competition, the 21th, once again attracted a large number of entries from around the country. Fifty superlative works will now be selected by the judges for exhibiting at nine venues across Japan, from Sapporo to Fukuoka. We hope the competition will continue to encourage children's love of drawing and painting, bringing smiles and building confidence while nurturing talent and possibilities. Do take the time to visit one of the exhibitions of award-winning work, and savor the brilliant efforts of a new generation of young artists.

キラキラッとアートコンクールのながれ

Kira Kira Art Selection Process



優秀賞決定

Judges select 50 works

18歳までの何らかの障がいのある子どもたちであればご参加いただけます。2022年7月～9月までに応募された作品から審査会(1次審査・一般審査・本審査)を経て、優秀賞50作品を決定。

審査員

○ JUN (画家・東京藝術大学名誉教授)
青柳 路子(東京藝術大学准教授、教育研究者)
西田 克也(西田克也デザインオフィス グラフィックデザイナー)
高橋 宏和(社会福祉法人東京コロニー アートビリティ代表)
吉田 淳一(三菱地所株式会社 執行役社長)
野口 玲一(三菱一宮館美術館 上席学芸員)

10月下旬



受賞者のつどい

Online Ceremony

優秀賞受賞者の表彰式を開催。
賞状および優秀作品集を贈呈します。
※写真は第20回の表彰式です。

2022年11月10日(木)



優秀賞作品展

Exhibitions of award-winning entries

優秀賞50作品の作品展を全国9会場(札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・大阪・広島・高松・福岡)で開催します。

※都合により期間、会場は変更になる場合があります。

11月上旬～2月下旬



子どもたちの可能性を応援

歴代応募者の中から社会福祉法人東京コロニーが運営する「アートビリティ」※の登録作家として現在27名が活躍しているほか、応募作品はこれまで、様々な企業の冊子やカレンダー等に使用されています。また、三菱地所グループの来客受付エリア等に原画を展示し、作品展以外にも作品をご鑑賞いただく機会としています。

※「アートビリティ」

社会福祉法人東京コロニーが運営する障がい者アートライブラリー。現在、約200名の作家による約6,000点以上の作品がストックされ、印刷物等の媒体に有料で貸出し、その使用料の60%を作家の方々にお支払いしています。



前田建設工業株式会社 2022年カレンダー



三菱地所グループ来客エリア展示



「キラキラッとアートコンクール」公式サイト

優秀賞および全応募作品をご覧いただけます。
アートビリティ登録作家の活動取材した動画
「キラキラッとVOICE」も公開中!

<https://www.kira-art.jp>

